

国会討論におけるノダとワケダ

— 政権交代後の変化 —

伊士 耕平

前稿で国会討論におけるノダとワケダ（ともにモダリティ形式）の分布を調べたところ、質問者がノダを多く使い、答弁者がワケダを多く使うことが分かった。その後政権交代があったが、ノダの使用傾向は変わっていない。党派に関わらず多くの人が、質問者となったときに共通して同じ形式を使う、という事実は興味深い。変化した点は答弁者の話し方で、交代前の自民党政権に比べて交代後の民主党政権では、ワケダを使った説明が全体的に減った。その理由はさまざまに考えられる。

Keywords : 国会会議録, 「のだ」, 「わけだ」, 提示, 使用率

1. はじめに

筆者は拙稿2010（以下「前稿」と呼ぶ）において、国会討論（衆／参予算委員会）の文字化テキストを用いてノダとワケダ（ともにモダリティ形式）の使用実態を分析し、次のような分布の違いがあると結論した。言わば、ノダで攻め、ワケダで守るのである。

(1) 前稿の結論

質問者 = ノダを多く使う。
答弁者 = ワケダを多く使う。

前稿は、2009年11月の岡山大学教育学部国語研究会での研究発表が元になっているのであるが、その発表用のデータを作成しつつあった8月に、衆議院議員選挙で民主党が大勝し、いわゆる政権交代が起こった。これはなかなか興味深い出来事である。なぜなら、それまで質問者側であった議員が大臣となって答弁者側となったり、その逆のことが起こったりするが、そのような状況でノダとワケダの使用に変化があるかどうかを観察できるからである（研究発表時にもそのような意見が出された）。

そこで本稿において、政権交代後のデータを提示し、前稿のデータと比較して、政権交代前後の変化

について述べることにしたい。あらかじめ結論を簡単に述べれば、質問者がノダを多く使う傾向は変わらなかった。しかし、答弁者のワケダの使用率はそれほど高くなかった。このことは、説明するときの話し方が変化したと解釈できる。

なお本稿では、「のです」「のであります」「んだ」「んです」などを一括し（ノダと表記）、「わけです」「わけでございます」などを一括する（ワケダと表記）ことにする。

2. 先行研究

本論に入る前に先行研究を概観しておく。前稿にも述べたのでここでは必要最小限にするが、まず、ノダとワケダを対照的に研究したものの中で、よくまとまったものとして、宮崎他2002（p.239ff）と、ほぼ同じメンバーによる日本語記述文法研究会（以下「記文研」）編2003がある。後者のほうが標準的であると考えられるので、ここでは後者による。

そこでは、ノダ・ワケダともに「説明のモダリティ」を表し、説明のモダリティとはその文と先行文脈との関係づけを表すものである、とされる（p.189ff）。

それぞれの用法について、まずノダは「関係づけ／非関係づけ」「提示／把握」という二つの軸に

よって分類される。国会討論においては提示・非関係づけ用法が多いが（例：「じつは〇〇という問題があるんです。」）、これは「すでに定まっているが聞き手は認識していない事態を提示し、認識させようとする」ものである（p.201）。なお、以上の枠組は野田1997（p.67など）を踏まえている。

一方、ワケダは論理的必然性のある帰結や結果を提示／把握することを表す。その論理性がやや低くなると「換言」に近づき、さらに低くなると「話しことばなどで軽く用いられ、その文の内容がたしかに存在することを聞き手に示すような用法」となる（例：「私、ぜんぜんわかんなかったわけ。」）。

この、最後の用法が国会討論では多いが、この用法については、はやく寺村1984（p.285）が次のように述べている。

P→Qという推論の過程は示さず、Qということ、自分がただ主観的にそう言っているのではなく、ある確かな根拠があつての立言なのだということ、を言外に言おうとする言いかた。乱用すると独断的な、押しつけ的な印象を与える。

寺村は「確かな根拠があ」とし、記文研2003は「その文の内容がたしかに存在する」、さらに宮崎他2002（p.237f）は「客観性の付与」であるとする。国会討論のデータを見る限りでは、客観的事実が確かに存在することを強調する例が多い。つまり、寺村など三者の意見を混ぜたような考え方である。「提示」というのは、強調を伴うように感じられる（具体例は後掲）。

また、記文研2003によれば、ノダとワケダは多くは置き換え可能であるが、不可能な場合も少なくない。それは例えば以下のような場合である。

ノダのみ＝言語化されていない状況について、その事情を提示する。

ワケダのみ＝すでに認識していた事態について、その事情を知り、必然性を納得する。

これらは国会討論においてはほとんど出現しない。討論は言葉で明示的になされるものであるし、討論中に「納得」することはあまりないからである。逆に言えば、国会討論において、ノダとワケダはほとんど置き換え可能であると考えてよい。ここに両者を対照させて観察する根拠の一つがある。

ノダとワケダを対照させた研究では松岡1987、同1993が有名である。そこでは、ノダ・ワケダとも二つの事柄の関係を認定するものであるが、ノダは話し手の責任において主張するとき、ワケダは話し手が納得するときを使う、と説明しているが、上述のように国会討論でのワケダを「納得」という言い方で理解するのは難しい。

国会討論というのは、やや特殊な言葉の使い方をする。その意味では、ノダやワケダの本質に迫る材料とはなりにくいかもしれない。

なお、東2007は政治家の言葉を分析して話題になった。その中には文末表現の分析も少し含まれているが、ノダ・ワケダの使い分けについては言及していない。

3. データと方法について

前稿では政権交代前の国会討論6日分をデータとした。その日付を(2)に、当時の総理大臣の名と発言の総字数と共に示そう。字数には句読点やカギカッコなども含める。なお、以下において議員の所属や肩書に言及するときは、すべて当時のそれである。

(2) 前稿のデータ

2007年2月23日 衆議院予算委員会
（安倍晋三、計130,531字）

2007年3月26日 参議院予算委員会
（同上、計95,855字）

2007年10月10日 衆議院予算委員会
（福田康夫、計132,480字）

2007年10月16日 参議院予算委員会
（同上、計121,870字）

2009年5月7日 衆議院予算委員会
（麻生太郎、計139,150字）

2009年5月21日 参議院予算委員会
（同上、計112,995字）

（合計732,881字）

それぞれの総理につき二日ずつ、かつ、衆議院と参議院では所属議員が異なるので、両院から採取したのである。いずれも予算委員会であるが、そこでは実際の政策をめぐって与野党が鋭く対立する。なお、日付に特に意味はない。

前稿で使用したのは、「国会会議録検索システム」(<http://www.kokkai.ndl.go.jp/>)からダウンロードしたテキスト・ファイルで、それぞれその日の議事内容全部である（2007年3月26日は審議時間が他より短い）。一部については筆者自身が録音・文字化したデータがあるので、照合・確認したところ、国会会議録のデータがかなり正確であることが分かった（このことは前稿に述べた）。ちなみに、松田編2008などでこのデータは使われている。

本稿でも国会会議録のデータを使用する。ただし量を前稿の倍に増やして、政権交代後の民主党内閣二つ（鳩山由紀夫・菅直人両総理）について、それぞれ6日分（衆参各3日分、合計12日分）を使う

こととした。

具体的な日付は表1に示す。今回も、日付に深い意味はない。以下、例えば2009年11月6日の参議院での会議を「091106 参院」のように記すこととする。

表1はさらに、それぞれの日のノダ／ワケダの総数と使用率を、質問者／答弁者に分けて記してある。使用率とは、100字あたりのノダ（またはワケダ）の個数である。

データの分析方法や集計方法は、基本的には前稿と同じである。テキストを句点ごとに改行し、表計算ソフトに読み込み、「んです」「んだけれども」などの形を抽出して数えていくのである。

なお、「のですか」「のでしょうか」「わけであれば」「わけではありません」「わけだった」などの疑問形・推量形・仮定形・否定形・過去形は除く。いわゆる説明のモダリティを直接的に表わす例を採取の対象とするのである。よって「んです」などの終止形と、「のだから」「わけですて」などのあとに続く形の一部とを採るのであるが、例えば「確かなんですね？」のような念押しの場合は採らない。また、引用文中にあるものも、発話者自身の言葉ではないので採らない。

集計は、まず会議日ごとに個人別に集計する。その後、質問者／答弁者に分けて合計し、平均を出す。また、日付を無視して個人別に集計することもある。

最後に、政権には他の党の議員を含むこともあるが、以下では簡単に、例えば「自民党政権」などと呼ぶことにする（内閣に公明党の議員が含まれていても）。

4. 結果と考察

4.1 概観

表が多くなりすぎるので、発言者個人別のデータは省略する（ただし一部後掲）。

すでに述べたように、会議日ごとにノダ／ワケダの使用数などを表1に示した。これを見ると、12日分全体の平均は次のようである。

(3) 今回のデータ（平均値）

質問者：ノダ0.35, ワケダ0.13

答弁者：ノダ0.07, ワケダ0.11

日ごとに見ると上がり下がりがあるものの、総じて質問者のノダの使用率が高い。無論、たんに個人の口癖でノダ（またはワケダ）を多く使う人もいる。しかし今回のような大量のデータの中では、それは無視してもよい程度のことである。質問者は毎回入

れ代わるのにノダ使用率は大きく変化しないことからしても、口癖の結果と考えることはできない。

政権交代前の数字はどうであったか。前稿の結果を再掲すると（前稿の表7による、6日分全体の平均）、次のとおりである。

(4) 前回のデータ（平均値）

質問者：ノダ0.35, ワケダ0.17

答弁者：ノダ0.09, ワケダ0.20

(3)と(4)を比較すると、質問者のノダ使用率は0.35と、今回のデータと奇しくも同じ値となっている。答弁者のノダも、だいたい同じ使用率である。

問題はワケダである。前稿の(4)では、答弁者のワケダ使用率がノダの約2倍となっていたので「答弁者はワケダを多く使う」と、結論したのであるが、今回はノダ0.07, ワケダ0.11で、差が1.5倍程度に縮まってしまった。よって今後は、次の(5)のように結論することにする。

(5) 本稿の結論

{ 質問者＝ノダを多く使う。

{ 答弁者＝ワケダを少し多く使う。

(5)のような傾向は、個人のデータでもある程度確認できる。表2をご覧いただきたい。政権交代の前後で質問者／答弁者の立場が入れ代わる人が、今回のデータの中では14名いる。それを質問時のノダ使用率の高い順に並べたものである。

右端の欄二つのうち左は、質問時で見てノダ使用率がワケダ使用率より0.1以上高いものに○、0.1未満で0よりは大きいものに△を付けてある。右は、答弁時で見てワケダ使用率がノダ使用率より0.1以上高いものに○、0.1未満で0よりは大きいものに△を付けてある。要するに、使用率の差が大きいものを○としたのである。例えば、舛添要一氏は、政権交代後野党になり質問者になったときはノダ0.33, ワケダ0.03で、ノダが0.1以上高いので○だが、交代前の政権側で答弁者のときはノダ0.11, ワケダ0.12と、ワケダは0.01しか高くないので△である。

大ざっぱに言えば、14名中12名が、程度の差はあるにしても、(5)の傾向を見せているのである。個性のさまざまな人たちが、質問者／答弁者という枠組みの中で特定のモダリティ形式を使う傾向があるという事実は、なかなか興味深い。もっとも、「散らばり」は激しく、質問者であってもワケダしか使わない人もいる（例えば表2中の14海江田氏）。(5)は、あくまで大きな傾向であるにすぎない。

表1. 会議日の一覧とノダ／ワケダ数

会議日	質問者					答弁者					総字数	
	ノダ	使用率	ワケダ	使用率	字数	ノダ	使用率	ワケダ	使用率	字数		
091106 参院	344	0.56	40	0.07	61102	36	0.06	59	0.10	59279	120381	鳩山内閣
091109 参院	214	0.35	52	0.09	60549	53	0.08	52	0.08	65495	126044	
091110 参院	87	0.25	77	0.23	34164	13	0.04	31	0.08	37095	71259	
100226 衆院	163	0.36	75	0.17	45197	28	0.12	39	0.17	22471	67668	
100301 衆院	111	0.24	73	0.16	45360	12	0.04	30	0.10	29286	74646	
100302 衆院	125	0.37	32	0.09	33698	5	0.04	15	0.11	14278	47976	
101101 衆院	153	0.32	37	0.08	47675	33	0.10	41	0.13	31551	79226	菅内閣
101108 衆院	220	0.29	115	0.15	75575	28	0.05	52	0.10	51917	127492	
101109 衆院	281	0.36	107	0.14	77477	37	0.12	83	0.05	50345	127822	
101118 参院	215	0.38	82	0.15	56501	54	0.10	63	0.11	56016	112517	
101119 参院	178	0.27	83	0.13	65729	67	0.10	68	0.10	66140	131869	
101126 参院	180	0.35	60	0.12	50811	21	0.06	53	0.16	32498	83309	
合計・平均	2271	0.35	833	0.13	653838	387	0.07	586	0.11	516371	1170209	

表2. 同一人物の、質問／答弁時のノダ／ワケダ使用率

No.	議員名	質問時			答弁時			質問時に ノダ多い	答弁時に ワケダ多い
		ノダ・率	ワケダ・率	字数小計	ノダ・率	ワケダ・率	字数小計		
1	塩崎恭久	0.41	0.24	11952	0.00	0.26	1546	○	○
2	舛添要一	0.36	0.03	17080	0.11	0.12	39354	○	△
3	菅直人	0.35	0.07	33258	0.07	0.16	122574	○	○
4	岡田克也	0.35	0.33	13769	0.03	0.11	12312	△	△
5	平野博文	0.30	0.02	16151	0.00	0.10	3027	○	○
6	前原誠司	0.26	0.22	28996	0.04	0.13	31640	△	△
7	福島みずほ	0.25	0.05	15062	0.00	0.05	2172	○	△
8	亀井静香	0.23	0.36	8617	0.20	0.25	1993		△
9	石破茂	0.22	0.02	16638	0.04	0.12	23408	○	△
10	原口一博	0.16	0.00	11848	0.04	0.00	2767	○	
11	額賀福志郎	0.15	0.15	6198	0.00	0.27	2258		○
12	馬淵澄夫	0.13	0.17	15163	0.14	0.03	11424		
13	赤松広隆	0.09	0.11	8833	0.13	0.10	13561		
14	海江田万里	0.00	0.20	3498	0.03	0.09	6678		△

4.2 ノダについて

すでに述べたように、質問者がノダを多く使うのは、政権交代の前後で変化がない。ここで具体例を挙げて、ノダの用法を確認しておきたい。

政権交代後のデータを見て発言量が多い人の中で（仮に10,000字以上とする）、ノダ使用率の平均が高いベスト5は、脇雅史（1.16）・荒井広幸（0.68）・田村憲久（0.67）・西田昌司（0.64）・加藤紘一（0.55）5氏である。なぜか、自民党か元自民党の人ばかりである。

例として、脇氏の発言を挙げよう（以下、カギカッコ内は筆者による補足説明と出典である）。

(6) [鳩山総理の所信表明演説の中に「総選挙の勝利者は国民一人一人」とあったことについて] 揚げ足取りで申し上げているのではなくて、実はこれは非常に大事なことなんです。選挙でお勝ちになったから民主党政権になるのは当然です。しかし、民主党の政党がそのまま政府になるわけではないんです。国会の承認を得て、そして初めて民主党の党首だった鳩山さんが国全体の総理になられるわけです。私の総理でもあるんです。みんなの総理なんです。行政府として全国民を視野に入れた総理であるということとをきちっと認識をされたら、ちょっとこの国民一人一人という言葉も違う言葉になるんじゃないかなと私は思うんです。鳩山総理も、今言われましたように決してそんなおごった気持ちでないということは分かるんですが、実は国民全体に対して行政府が存在するんだということは大変大事なことで、大臣一人一人もそうだと思うんですね。決して民主党のためでもない、民主党を支持した国民のためでもない、国民全体に対して奉仕をする立場だ。どうですか。[091106 参院]

これらのノダの多くは、前の要素との関係づけはしておらず、“実はこれは大事なことである”などの事柄を問題点として提示していると見てよからう。

ただし(6)は、ノダが異常に多く（引用部分だけで使用率を出すと1.76と、脇氏の平均値よりもさらに高率になる）、脇氏の個人的な口癖のようにも見える。そこで次に、質問者の中でノダ使用率が平均的な値となっている人を例として挙げよう。例えば櫻井充議員（民主党）である。

(7) これは我が党の最重要政策としてもうここ四、五年ずっと主張してきたことですから、これを実行していただきたいことと、亀井大臣、今回の法律は時限立法になっていますよね。私は、この点すごく大

きな問題があると思っています。それはなぜかという、金融機関の方々とお話すると、十一月の七日付けで条件変更は不良債権じゃないという扱いになりました。しかし、以前は、竹中さんの時代は全部不良債権になると。ですから、これがまた制度が変わってしまうんじゃないかということで皆さん怖くて使えないという、この声が圧倒的に多いわけですよ。そうすると、今回も時限立法にしようとして、またいずれ何かの折に制度が変わってしまうと、条件変更したら不良債権になってしまうと。[091109 参院]

櫻井議員のノダ使用率は平均0.33で質問者全体の平均0.35に近い。ここに挙げた部分は319字中にノダが1つで、使用率は0.31となる。あまり多いという感じはしないかもしれないが、ノダは(6)のように集中して現れることが多いのである。本稿ではその点は考慮せずに、全体を均して多い／少ないを考えているわけであるが、自民党対民主党などの相対的な視点が重要であるので、それであまり問題はない。

ちなみに(7)にはワケダも一つある（波線部）。ワケダにも提示機能はあり、この例でも問題点を指摘している。ただ、先行するノダが“問題点があると思う”ことを主観的に強く提示しているのに比して、“批判の声が多い”ことが客観的な事実なのだという提示のしかたをしているように思われる。

4.3 ワケダについて ―内閣の説明態度の違い―

ワケダの平均使用率は、0.20から0.11に下がった。もう少し内実を探るために、図1を見ていただきたい。発言量（本稿では「字数」）の多い答弁者について、ノダ使用率を縦軸にワケダ使用率を横軸に配して散布図にしたものである（表3がもとのデータとなる）。図1-Aが政権交代前の答弁者（自民政権）、1-Bが交代後の答弁者（民主党政権）である。交代前（6日分）、交代後（12日分）それぞれで、総字数の多い上位20名をプロットした。各総理大臣と特徴的な人には、a～lの記号を付けてある。

二つの図を比較すると、数人の例外（j, k, l）を無視すれば、自民党に比べて民主党は明らかに左下隅に偏っている。つまり、大まかに言えば、民主党はワケダをあまり使わない人が多いのである。客観性があるということ強く押し出して説明しようとしな。それに対して自民党は満遍なく分布している。ワケダを使う人も使わない人もいる。

極端な例を挙げよう。民主党政権の馬淵澄夫総務

表3. 答弁者個人のデータ

A. 政権交代前（自民政権）

No	人名	ノダ率	ワケダ率	総字数
1	安倍晋三 f	0.03	0.43	43471
2	舛添要一	0.11	0.12	39354
3	福田康夫 b	0.18	0.16	33635
4	麻生太郎 a	0.08	0.00	30645
5	石破茂	0.04	0.12	23408
6	柳澤伯夫	0.14	0.21	16820
7	与謝野馨	0.06	0.14	14662
8	冬柴鐵三 e	0.08	0.34	10393
9	鳩山邦夫 d	0.11	0.29	7345
10	菅義偉	0.03	0.07	6880
11	甘利明	0.12	0.18	6841
12	高村正彦 c	0.42	0.22	5993
13	若林正俊	0.02	0.12	4858
14	塩谷立	0.02	0.43	4392
15	河村建夫	0.00	0.32	4374
16	増田寛也	0.02	0.30	4060
17	上川陽子	0.00	0.03	3197
18	久間章生	0.03	0.32	3127
19	斉藤鉄夫	0.03	0.20	3022
20	鴨下一郎	0.00	0.33	2996

B. 政権交代後（民主党政権）

No	人名	ノダ率	ワケダ率	総字数
1	菅直人 i	0.07	0.16	122574
2	鳩山由紀夫 h	0.01	0.09	76116
3	長妻昭	0.03	0.06	35972
4	前原誠司	0.04	0.13	31640
5	仙谷由人	0.12	0.10	30636
6	細川律夫	0.04	0.09	19674
7	北澤俊美 k	0.13	0.35	16789
8	赤松広隆	0.13	0.10	13561
9	岡田克也	0.03	0.11	12312
10	馬淵澄夫 g	0.14	0.03	11424
11	野田佳彦	0.04	0.04	11172
12	蓮舫	0.09	0.03	9795
13	柳田稔	0.02	0.03	9453
14	玄葉光一郎	0.33	0.02	9126
15	片山善博	0.18	0.15	8956
16	直嶋正行	0.21	0.05	8609
17	川端達夫	0.05	0.00	7811
18	海江田万里	0.03	0.09	6678
19	鹿野道彦 l	0.00	0.33	5676
20	藤井裕久 j	0.78	0.18	4377

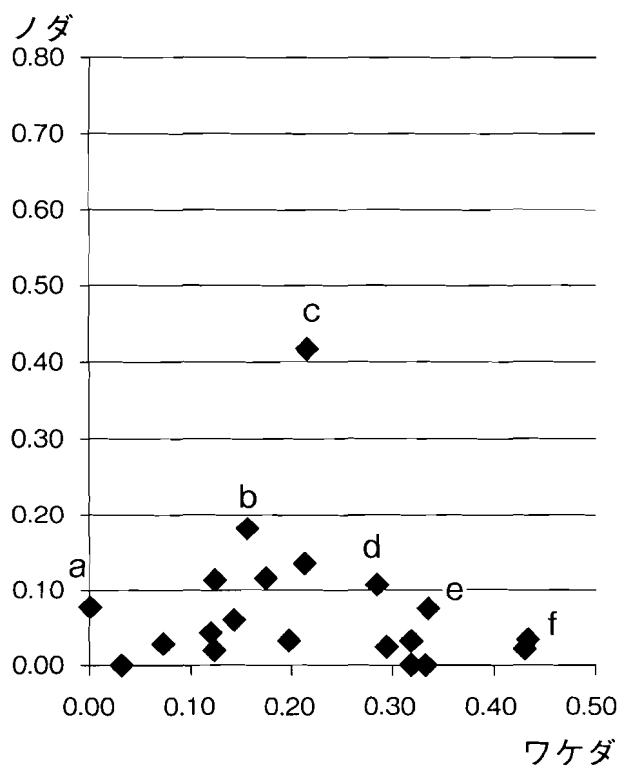


図1-A 答弁者（交代前・自民）

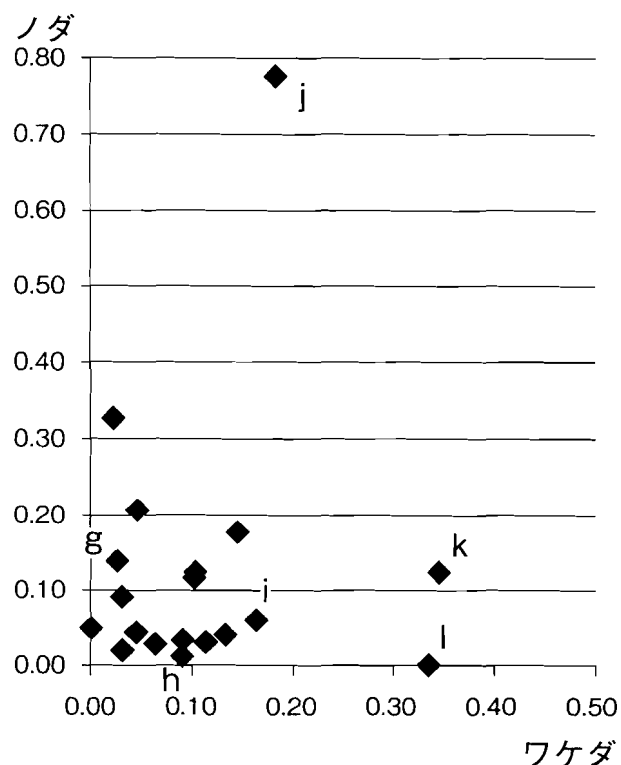


図1-B 答弁者（交代後・民主）

大臣(沖縄及び北方対策担当)は表3-Bの10より、ワケダ使用率が0.03と、かなり低い(図1-Bではg)。例えば次のような発言をしている。

(8) [交通遮断など米軍基地がもたらす影響について質問され] 今先生の御指摘のとおり、まちづくりに対しても大変大きな制約要因となっているということを私ども十分承知しております。その上で、だからこそ、この社会資本整備をいち早く、私どもは沖縄振興の最も基礎の部分として取り組まねばならないと考えておりました、これはもう先生よく御承知の、私どもが今日まで行ってまいりました振興の特別措置法、これによりまして社会資本整備を重点的に行ってきたものでございます。特に、今、下水の問題も御指摘がありました。給水などの水資源開発におきましては、今日までの取り組みによりまして、過去、給水制限日数、これは昭和四十七年から平成三年でございまして、二十年間で一千百日あったものが、平成四年から平成二十年の十七年間で三十一日と短縮をされた。一定の成果を上げつつもありますが、まだまだまちづくりに大きな制約を与えていることも承知しております。引き続きまして、課題として、私ども、今御指摘のような今後のまちづくりに向けての対応というものを、この特措法の期限が切れますのが来年度末でございまして、それにかかわる整備を行ってまいらねばならない、このように考えております。[101101衆院]

この部分は487字あるが、ワケダが一つもない(ちなみに使用率が0.11であれば、この部分にワケダが約0.5個現れる計算になる)。文字からだけでは声の調子などは分からないが、言葉が丁寧なことと相まって、なにが役人的な話し方に感じられる。もし、きちんと成果を上げていることを強調したいのであれば、「一定の成果を上げつつあるわけです」などと、ワケダを使うであろう。ちなみに馬淵氏は、政権交代前の質問者のときはワケダ使用率が0.17と高いほうである(表2の12)。

もちろん民主党政権の答弁者がすべてこのような話し方であるというわけではない。図1-Bの右端にあるkは北澤俊美防衛大臣であるが、発言の例を挙げてみよう。

(9) 根本に戻った御質問でありまして、大変いい機会を与您にいただいたというふうに思っております。申すまでもなく、シビリアンコントロールとは、民主主義国家における軍事に対する政治の優先ということでありまして、また、軍事力に対する民主主

義的な政治による統制を指すものであるというふうに一般的に定義をされておるわけでありまして。軍事力は国民を守る力であることから、軍を政治の統制の下に活用するとともに、軍の政治介入を防ぐため、シビリアンコントロールを確保するための制度がつくられてきたというふうに私は承知をいたしております。我が国においても、実力組織たる自衛隊は、法律、予算等について国民を代表する国会の民主的コントロールの下に置かれておるわけでありまして、国の防衛に……こういう国の根幹にかかわるようなことは冷静にかつまじめに議論することが私はまず前提にあるべきだというふうに思っております。[101126参院]

この部分だけでみると、390字中にワケダが2個で、率は0.51である。「申すまでもなく」という言葉があることからわかるように、一般的な定義や客観的事実を強制的に提示しようとしている。しかし、このような話し方は民主党の答弁にあってはあくまで少数派なのである。なお、引用中の「……」は、ヤジを受けて言い淀んでいる部分である。

次に、政権交代前の自民党の答弁を見てみる。図1-Aでワケダ使用率が一番高いのは安倍総理fで、三番目は冬柴鐵三国土交通大臣eであるが、ともに前稿で例として取り上げたので、ここでは除く。ちなみに安倍氏は異常にワケダが多いが、それは単に口癖であること、冬柴氏は典型的な答弁者であることを前稿で述べた。

ここでは、比較的知名度の高い鳩山邦夫総務大臣(地方分権改革担当、由紀夫氏の弟)dを例として挙げてみよう。

(10) [公立病院を自治体健全化法に含めることは正しいのかという質問に対して] 人の命を救う病院の問題であって、もちろん全国にある公立病院の状況はそれぞれさまざまだと思いますが、やはり公立病院は特別の要素があると思うんですね。つまり、救急とか産科、婦人科等、あるいは僻地医療等、採算がとれなくても引き受けなくちゃならない、あるいは、その地域ではその公立病院以外一つもないというような、そういう使命を帯びているわけだし、私は医療のことは詳しくありませんが、やはり、私立の病院の場合は採算がとれるような方向で物を計画できても、そうできない部分というのがあるわけですから、私は、公立病院が負っている使命というのは格別のものがあると思うんです。したがって、この四月一日から始まりました地方自治体の財政健全化の割合を示す法律、その指標みたいなもので公立

病院を全く同じに見てしまうと、私は、それは問題があると正直言って思います。[090507 衆院]

この部分だけで見ると、ワケダ使用率は0.54である。一般的な真理をワケダで提示して、それを根拠にして自分の考えを述べている（ノダで提示）。(8)に比べて、事柄を提示する、強調的表現が追加されている分、丁寧に説明しようという気持ちを感じられる。

聞く人によって価値判断は異なるので、どちらの話し方がよいなどとは言うべきではない。とにかく話し方が異なるということである。その違いを思い切って言えば、自民党のほうは良く言えば丁寧、悪く言えば粘着質、民主党のほうは良く言えば冷静・沈着、悪く言えば役人的でそっけない、とでもなるであろう。

ちなみに総理大臣だけを見ると、答弁者であるからノダ使用率は各人とも低めである。ワケダ使用率を見ると、政権交代前の安倍氏は過剰、麻生氏は逆に皆無で、福田氏は中間的である（図1-Aのf, a, b）。交代後の鳩山・菅両氏はともにだいたい平均的である（図1-Bのh, i）。交代前のほうが個性的であるとは言える。

5. おわりに

以上、政権交代の前後で、質問者がノダを多く使うことには変化がないこと、交代後の民主党政権は自民党政権と比較してワケダをあまり使わないことなどを見てきた。ノダ・ワケダともに提示機能があり、多くの場合置き換えることが可能であるにも関

わらず、質問者はノダを多用し、かつ、その傾向は政党や個人にあまり関係ない。これはなかなか興味深い事実である。

なぜ民主党政権はワケダの少ない話し方となるのか、についてはさまざまに考えることができるが、国語学的に見て興味深いのは、文体の問題として捉えることである。筆者は以前から国会においてワケダの使用が多いように感じており、言わば“国会討論体”とでも言うべき文体があるのではないかと考えていた。自民党はそのような文体によく馴染んで、よく使用しているのに対し、民主党はまだ馴染んでいない、ということのように思われる。

引用文献

- 東 照二 2007『言語学者が政治家を丸裸にする』文芸春秋
- 寺村秀夫 1984『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編 2003（野田春美他執筆）『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版
- 野田春美 1997『「の(だ)」の機能』くろしお出版
- 松岡 弘 1987『「の(だ)」の文、『わけだ』の文に関する一考察』『言語文化』24, 一橋大学
- 同 1993「再説—『の(だ)」の文・『わけだ』の文』『言語文化』30, 同上
- 松田謙二郎編 2008『国会会議録を使った日本語研究』ひつじ書房
- 宮崎和人・野田春美他 2002『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版
- 伊土耕平 2010「ノダとワケダ—国会討論における分布—」『岡山大学 国語研究』24